

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「真心から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

→ **5** 神の預言の確かさ

終末論 —その3—

「この世の終わりのときのこと」についての聖書研究

→ **6** 究極的に立証される神のすべての言葉

エゼキエル書38、39章の「ゴグ・マゴグの戦い」

☆「ゴグ」：

「マゴグの地」、一今日のロシア、旧ソビエト連邦の領土一の民、スキタイ人

⇒ 文脈から、神の民撲滅をはかる「悪の力の主」の擬人化

☆ゴグ、「北の果てのあなたの国」ーロシアー、から「イスラエルを攻めに上って」くる

「ゴグ・マゴグの戦い」の進展

☆神がご介入、世界的な大地震が起こる

☆敵勢、剣での同士打ち

☆疫病、流血沙汰、豪雨、雹、火、硫黄が下る

恐ろしい裁きとその結果

☆イスラエルは守られ、敵勢は滅ぼされる

⇒ 神の御旨は、ご自分の選びの民イスラエルと全諸国民すべてが、真の神を知ること

黙示録20：7-10の「ゴグ・マゴグの戦い」

☆「マゴグ」：ゴグとくみする者、民

☆これは別の「ゴグ・マゴグの戦い」

1. 起こる時期、背景

★エゼキエルの預言

イスラエル国家復興に続き、ユダヤ人が四散した地からイスラエルに戻り始めた後

★黙示録の戦い

キリストの地上での千年支配の最後

2. 規模

★エゼキエルの預言

限られた国々の同盟軍（ゴグと五ヶ国）による略奪目的のイスラエル侵略

★黙示録の戦い

全世界からの民が参戦

3. 戦いの後、続く出来事

★エゼキエルの預言

集められた死体が埋められる作業に七ヶ月

集められた武器、七年間の燃料代わり

メシヤの神殿建設

★黙示録の戦いの後、直ちに世の終わりが到来

サタンに加担した地の住民の第二の死

サタン、永久の苦しみ「火と硫黄との池」に投獄

現存の天と地の崩壊

第一の復活に与らなかった全人類の復活と最後の審判

聖書

「ゴグ・マゴグ」が再び黙示録に登場することの謎

†アモス書7：1

「主は、わたしに示された。見よ。いなごの群れがやって来た。見よ。破壊的な若いいなごの一匹は、王ゴグであった」(LXX〔七十人訳ギリシャ語聖書〕、下線付加)

†アモス書7：2-3

「そのいなごが地の青草を食い尽くそうとした…そのことは起こらない」と主は仰せられた」
アモスの執り成しを主が聞かれ、
ここで預言された出来事、一ゴグによる破壊的なイスラエル侵略—は起こらなかった

⇒原則「聖書は聖書自体を解釈する」

→**2**多面的、多角的構造の聖書

†箴言30：27

「いなごには王はないが、みな隊を組んで出て行く」(下線付加)

†黙示録9：1-11

地の底からいなごの大軍が地上に上って来るが、その王は悪霊アバドン
→自然のいなごに王はいないが、悪霊のいなごには王がいる

ゴグの正体

ゴグが悪霊の王であるなら、
千年間のメシヤ支配の終わりに、サタンの地下牢からの解放後、
悪霊の大軍「ゴグとマゴグ」も再び登場、人々を惑わすことは、起こりうる
⇒エゼキエル書の「ゴグ・マゴグ」、北の地からやって来る悪霊への関連づけも可能

オリーブ山でのキリストの講話 The Olivet Discourse

☆マタイ24-25章 キリストの最も長い、最も重要な、終末論に関する講話
都エルサレムと神殿崩壊の預言 →近未来的には、70CEに成就
☆『黙示録』と『テサロニケへの手紙第一』の基は、オリーブ山での講話

講話の構成

裁き

キリスト、エルサレム入城後、ユダヤ人指導者を非難、イスラエルを告発
→キリストが行為で示されたことは、エルサレムと神殿の崩壊を予示

- ①マタイ21：1-11 ご自分のエルサレム入城は「神の訪れ」との、キリストの宣言
 - ②21：12-17 宮聖め
 - ③21：18-19 呪われたいちじくの木
 - ④21：33-46 裁きのたとえ —ぶどう園と拒絶された石—
 - ⑤22：1-14 王子の結婚の披露宴
 - ⑥23：1-39 パリサイ人への非難
- ①-⑥はすべて、一連の裁きの雷鳴

この文脈で、

- ⑦21：28-32 二人の息子のたとえ
- ④ぶどう園
- ⑤婚宴

→これら三つは順に、イスラエルに対する「告発」、「宣告」、「処刑」を象徴的に描写

イスラエルのキリスト拒否

☆キリストの勝利のエルサレム入城は旧約の預言の成就
イザヤ書24：23、40：9-11、52：7-10、62：10-11、ゼカリヤ書2：10-12、マラキ書3：1-4ほか
⇒しかし、イスラエル、メシヤを拒絶
キリスト、裁きを宣告 ルカ19：41-44

聖書

- ☆④「ぶどう園と拒絶された石」、⑤「王子の結婚の披露宴」のたとえの中の裁きの基盤は、ユダヤ人指導者のキリスト拒否
- ☆キリスト、ご自身を都エルサレムの行く末に関連づけ マタイ23：37-39
- ☆キリスト、ゴルゴタに向かわれる途上、ご自身に対する拒絶と、エルサレムと神殿に下る裁きとを関連づけ、イスラエルが招くことになる都の荒廃を預言的に警告 ルカ23：28-31
- ⇒キリストの死とエルサレム陥落、終末の始まりを画した

神殿

- ☆神殿を去られ、オリーブ山に向かわれたとき、弟子たちへのキリストの謎めいたお答え、弟子たちに質問を引き起こした マタイ24：2-3
- 「…いつ、そのようなことが起こるのでしょうか。あなたの来られる時や世の終わりには、どんな前兆があるのでしょうか」（下線付加）

主の再臨と携挙

- ☆天啓法時代論（Dispensationalism）が1800年代に導入されるまでは、すべてのキリスト者は1. 教会は終末末期の大艱難期の間、まだ地上に存在する
2. キリストの再臨によって、すでに死んだ信者の甦りと、まだそのとき生きている信者の携挙が起こる と、解釈
- ☆天啓法時代論
- 艱難期前に携挙が起こり、教会が天に引き上げられた、七年、あるいは、三年半後に、主の再臨が起こるとする見解
- ☆用語「携挙」、テサロニケ人第一4：17で「引き上げられ（る）」と邦訳
- ☆「携挙」に関するおもな聖句
- (1) コリント人第一15：50-54
- (2) テサロニケ人第一4：13-18
- 『艱難期前携挙説』信奉者、(2)を「携挙」に言及する中心的聖句とみなす

コリント人第一15：50-54

この文脈の趣旨：

「血肉のからだは神の国を相続でき（ない）」ので、キリストの再臨時、生きている信者は、神の国に与るために霊の身体に変えられなければならない

コリント人第一15章

23-26節

この文脈の趣旨： キリストが支配されるのは、最後の敵「死」が廃止されるまで

23節

キリストを信じる者がみな甦らされる出来事は、キリストの来臨時に起こる

24節

終りは、私たちの死ぬべき身体が「死なないもの」に変えられるときに来る

50-57節

この文脈の趣旨：キリストが最後の敵「死」を廃止されるのはいつか

54-55節

死に対する勝利は、信じる者が「甦りの身体」を受けるときに起こる
そのときは、キリストの来臨のとき

⇒「携挙」は、大艱難の前には起こりえない

54節は、イザヤ書25：8からの引用で、黙示録21：4にも引用

黙示録21：1-4、イザヤの「死の撲滅」の預言の成就を、神の永久の御国の樹立に関連づけ

⇒これらの文脈、携挙が、大艱難期の終わりに起こる主の再臨の一部であることで一貫

聖書

テサロニケ人第一4：13-18

キリストの再臨のとき、すでに死んだ信者が、まだ生きている信者と同じ特権「携挙」にあずかることができるかどうかを議論

テサロニケ人第一4章

14節

- ★パウロ、ここで、キリストを信じて死んだ兄弟姉妹たちに言及
- ★すでに死んだ者でも信者はみな、キリストの再臨のとき、死から甦らされ、生きたまま空中に引き上げられる他の信者たちと一緒にになる

15節

- ★パウロ自身、主の再臨のとき、まだ地上にいて「携挙される」者のうちに、自分を入れている

16節

- ★神の顕れるとき、吹き鳴らされる「**神のラッパ**」

17節

- ★「**雲**」はキリストの再臨時のしるし ダニエル書7：13
キリスト、マタイ24：31で、ダニエル書を引用され、ご自分の再臨に関連づけられた

16-17節

- ★眠っているこの世を目覚めさせるため、鳴らされる警報
- ★歴史を司る主が戻って来られ、人間史は劇的な終わりへと導かれる 黙示録1：7
- ★携挙によってキリストの御許に集められる、甦りの身体が与えられた信者を描写

文法的考察

- ★文法的に4：15-17は、再臨以外の出来事への言及とみなすことはできない
『テサロニケ人への手紙第一』には、主の再臨に言及している箇所が五ヶ所
①1：9-10 ②2：19-20 ③3：12-13 ④4：15-17 ⑤5：23
- ★『**艱難期前携挙説**』の立場を採っている、天啓法時代論者は、
①、②、④、⑤を「携挙」に、③だけは「再臨」に言及すると主張
⇒『テサロニケ人への手紙第一』の中でキリストの「来られるとき」への言及のすべては一つの出来事を明示

- ★テサロニケ人第一4-5章、携挙を含めた諸出来事を、主の再臨の出来事の一部として語り、オリーブ山でのキリストの講話と同じ出来事を描写
⇒パウロの終末論も、キリストの教えに準拠
キリストとパウロ、同一の出来事、一終末末期に起こる**主の再臨**を語っている

テサロニケ人第一4-5章とマタイ24章との比較

出来事	テサロニケ人第一4-5章	マタイ24章
1 キリストの再臨	4：16	24：30
2 天から下って来られる	4：16	24：30
3 号令と大きな声	4：16	24：30
4 御使いを伴って	4：16	24：31
5 神のラッパの響きとともに	4：16	24：31
6 信じる者たち、甦りの身体が与えられ、超自然的に空中のキリストの許に集められる	4：17	24：31、 ：40-41
7 雲の中	4：17	24：30
8 そのときがいつかは分らない	5：2、：4	24：36、：42
9 主の日は盗人のように来る	5：1-2	24：43-44
10 信じない者たちは裁きの切迫に気づかない	5：3	24：37-39
11 裁きは妊婦の産みの苦しみのように襲う	5：3	24：8
12 信じる者たちはだまされることはない	5：4-5	24：42
13 信じる者たちは見張っている	5：6	24：4、：33
14 酒酔いへの警告	5：7	24：49